福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）/ 福島県芸術祭参加行事
公益財団法人 花王 芸術・科学財団助成事業 / 公益財団法人 朝日新聞文化財団助成事業

福島ビエンナーレ2022「風月の芸術祭 in 白河」
萩原 朔美　講演会

- **日 時** 9月18日(日) 開場 12:30
  開演 13:00〜14:30
- **会 場** 白河市立図書館りぶらん 中会議室
- **演 題**「萩原朔太郎と旅」
- **料 金** 入場無料
- **定 員** 150名(先着順)

申込方法

電話またはメールにて [氏名、フリガナ、住所、電話番号] を添えて風月の芸術祭実行委員会事務局へお申込みください。

申込先：風月の芸術祭実行委員会事務局
（白河市役所　文化振興課内）

☎0248-22-1111（内線 2341・2342）
✉bunkashinko@city.shirakawa.fukushima.jp

萩原 朔美（はぎわらさくみ）

1946 年 11 月 14 日東京生まれ。映像作家、エッセイスト。多摩美術大学名誉教授。金沢美術工芸大学客員教授。
母は小説家萩原葉子、母方の祖父は萩原朔太郎。
寺山修司主宰の演劇実験室・天井桟敷の立ち上げに参加し、1967 年 4 月に旗揚げ公演となる『青森県のせむし男』で初舞台。その後、丸山明宏（三輪明宏）との共演作『毛皮のマリー』での美少年役が大きな話題を集める。俳優活動の後、1968 年『新宿のユリシーズ』にて演出を担当し、以降同劇団の演出家を務めるようになり、代表作に『書を捨てよ町へ出よう』『時代はサーカスの象にのって』などがある。演劇実験室・天井桟敷在団中から映像制作を開始し、退団後も、時間や記憶をテーマにした映像作品を制作。榎本了壱、山崎博、安藤紘平らとともに実験映画作品を精力的に制作、世界各地で上映会が開催される。1973 年 8 月アメリカ国務省の招聘により渡米し、帰国後、アメリカ文化センターでビデオアートの現在について講演、1975 年に株式会社エンジンルームを設立して、代表取締役に就任。雑誌『ビックリハウス』をパルコ出版より創刊し、初代編集長を務める。パルコ文化、渋谷系サブカルチャーといった文化を生み出し、牽引する。著書に『「演劇実験室・天井桟敷」の人々』(2000 年)『毎日が冒険』(2002 年)『死んだら何を書いてもいいわ』(2008 年)『劇的な人生こそ真実』(2010 年) 他多数。2021 年、世田谷美術館に、版画、写真、本のオブジェ 130 点が収蔵された。2016 年 4 月より前橋文学館館長。2022 年 4 月よりアーツ前橋アドバイザー。

※会場の様子を撮影・記録・放映する場合がありますので予めご了承ください。
※会場での新型コロナウイルス感染症対策にご協力願います。
※当日、体調がすぐれない方は入場をご遠慮ください。
※会場へのお問い合わせはご遠慮ください。
※今後の感染症拡大の状況によっては変更が生じる場合があります。

福島ビエンナーレ 2022
風月の芸術祭 in 白河

会期：9月10日(土)〜10月9日(日)

お問い合わせ：風月の芸術祭実行委員会
sirakawa2020art@gmail.com
https://shirakawa-art.com/